

「どんな時も心おだやかにたたずみ、そばにいてくれて心地よい。空気清浄機のような存在を目指しています」と話す池内さん。



50 臨床宗教師

* 牧師や僧侶が経験生かす

キリスト教の牧師や仏教の僧侶などが、宗教者としての経験を生かして、悲しみや悩みを抱える人の心のケアを行うのが臨床宗教師だ。宗教・宗派を問わず、活動中は宗教勧誘を行わない。

東日本大震災をきっかけに、家族を失った人などの支援のため、2012年度に東北大で臨床宗教師の養成講座が始まった。日本臨床宗教師会によると、その後、龍谷大、高野山大、武藏野大などにも広がり、新年度からは計10団体で研修を受けることができる。研修修了者は約220人。多くが同会に所属し、それぞれの地域の被災地や医療・介護施設などで活動を行っている。

し ご と 図 鑑

池内龍太郎さん 37

苦しむ心に寄り添う

埼玉や神奈川の緩和ケア病棟を月に数回、訪れている。

病室を巡ったり、談話スペー

スで患者と家族にお茶を振る舞つたりして、会話の相手を

する。「長い間、誰にも言え

ず、抱え込んでいた思いを話

してくれることがある。私た

ちの後ろに、宗教という支え

があるおかげでしょうね」と、

柔らかい笑顔で話す。

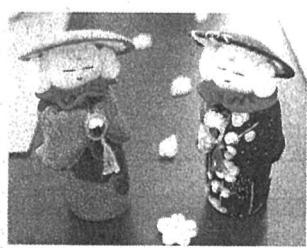
奈良で代々続く神職の家系に生まれた。医学部を卒業後、別の大学の神職養成課程で学んだ。現在は精神科医・産業医として、働く人の健康を守ながら、神主としても奉

職している。
医師だからこそ、科学では解決できない問題があることを知っている。「死の苦しみに、宗教者の慈愛で寄り添いたい」という思いから、臨床宗教師を志した。

戦後、人々が病院で最期を迎えるようになり、死が日常から遠ざかった。誰もが、暮らしの場でのみとりを経験しないまま、たくさん的人が亡くなる「多死社会」を迎えようとしている。「生と死とい

う重い問題に、どう向き合うか。道するべを探して、医療や科学の外に目を向ける人が増えるはず」と、役割の重さを実感している。

神社仏閣や地域の集会所で開く傾聴カフェには、通りす



* 私の相棒

(飯田祐子)

患者などに贈る手のひら地蔵。「念を込めてから、お渡します」